



検査ラインには常時、スキャンツールを1台置いてあるという

「始めた方がいいと思う。検査用スキャンツールも、VCI(ビークル・コミュニケーション・インターフェース)とパソコン、VCIとタブレット端末など、タイプによってさまざまだ。現在所有するスキャンツールが検査用として今後認定される可能性もある。これから検査用スキャンツールを購入する場合は、そのあたりを踏まえて判断しなければならぬ。新たに購入することもありだと思う」

— 認定工場にとっても今回の改正は無縁ではない

「認定工場にはOBD確認があり、OBD検査と同等の確認をすることで国の検査場でOBDの完成検査を省略してくれる。ただ、認定工場も検査場を持ち込む前にできる限り確認した方がいいと思う。もし特定DTCに不具合があったら



電子保安基準適合証などの取り組みにも早くから取り組んできた

それを解消する作業が大変だし、『俺は分からないから、(検査場に)持ち込んでやってもらう』という認定工場が多いと、時期によっては検査場がパンクする懸念がある。また、ユーザー車検だと事前にOBD確認をする方法がない。もし、OBD検査に通らなかつたらどうなるのか」

— 10月からプレ運用が始まる

「国が本番さながらの環境で1年間、習熟度を高めるためのプレ運用を行う。それは、OBD検査がそれだけ複雑だということ。また、国も手探りなのだと思う」

**車検の大きな枠組みが変わる**  
**ユーザーへの告知は不可欠**

— 自動車ユーザーへの告知も必要になる

「ユーザーへの告知も避けては通れない。当社

— 今後、社内で取り組むことは

「社内の研修で、担当者だけではなく全社的に研修しないとけない。社員全員が車検の大きな枠組みが変わることを理解し、OBD検査についての知識を共有する。そうしないと、お客様に料金のことを説明できない。細かい話だが、来年の10月以降はOBD検査の良否判定で指定整備記録簿にチェックを入れる項目が一つ増える。記録簿も変わることも含めて、社内の研修が必要だ」

「車検を受け入れる指定工場として、どのタイミングでOBD検査を行うか。10月からのプレ運用期間中に研修を行うが、制度を理解するには十分な時間だ。1年あれば完璧な状態に仕上げられる。全社で統一した意識を持ってやっていく。車検制度が変わるのはそれだけ重たいことと考えている」

(小野 大佐)

## ツカサ工業

## OBD検査の準備に必要なものは三つある

ツカサ工業(長野県大町市)は、来年のOBD検査に向けて全社員に知識の習得を図るとともに、今年10月からのプレ運用期間を利用して習熟度を高めて、本番に臨む方針だ。同社の佐藤憲司社長は自ら事業場IDなどの申請などを行った経験から、OBD検査を行うまでに必要な準備や段取りが多いと指摘する。申請を通じて感じたことなどを振り返ってもらった。



佐藤憲司社長

### 事業場IDの申請時に得た「教訓」 クライアント証明書はまず、パソコンへ

— OBD検査に向けた準備で苦労した点は何か

「事業場IDの申請を行う際にはクライアント証明書(電子証明書)が必要となる。これはOBD検査のポータルサイト内の利用者管理システムに入るにも必要なもので、私の場合、OBD検査で使用するためにタブレット端末にインストールしてしまつた。これが失敗だつた。DTC照会アプリのダウンロード、自社の検査員の設定などの作業をすべてタブレット端末で行うことになり、不便だつたからだ。最初のクライアント証明書は必ずパソコンにインストールし、社内の検査用スキャンツールの状況に合わせて必要な分だけ

け追加で発行するのがベストの手順だと思う」

「事業場IDの申請は、初日の4月21日に行つた。申請すると2通メールが送られてくる。そのうち1通はクライアント証明書をインストールするためのパスワードが書かれている。そのメールの到着が申請から1時間ほどのタイムラグがあり、これには少々戸惑つた」

— これから本格的にOBD検査への準備を進めるために必要なことは

「制度への正確な理解、インターネット環境の整備、検査用スキャンツールの三つだ。『OBD検査はスキャンツールをつなげばいい』という声を聞く。確かにそうだが、それをやるための準備、段取りはやるのが多く、大変だ。OBD検査はそもそもインターネットの環境がなければ行えない。そのためには検査場に有線あるいはWi-Fiでインターネットにアクセスできる環境が必要になる」

「事業場IDの登録にはメールアドレスが必要だ。事業場IDを申請し、メールが届いたら30日以内に必ずログインしてクライアント証明書をインストールしないとけない。利用管理者システムに入つてから設定する項目もいろいろある。OBD検査自体は指示通りにやればいいが、そ



ツカサ工業本社。乗用車だけではなく、大型車や大型特殊車両も扱う

の準備を整えるまでに引つかかるころが出てくるかもしれない」

### 検査用スキャンツールは必須 購入は自社の検査体制に合わせて

— 検査用スキャンツールについては

「自社の検査体制をどのようにしたいのかで変わってくる。例えば、完成検査を補完する形でOBD検査をやるのか、車を受け入れた時に全部やるのか。自社の体制に合わせて検討するところから

はホームページに専用のページを作成してアピールするとともに、チラシを作ってお客様に配布する。チラシは年内には配布したい。料金については、完成検査料とは別にOBD検査料という形で値上げを検討している。完成検査料に含めないのは、OBD検査の対象ではない車も値上げになってしまうからだ」

「OBD検査はコンピューターで車を診断するなどの手間がかかり、検査用のスキャンツールを導入するにも費用が必要なので、それに対する対価をいただく。その告知を自社のホームページでできるのは大きい。当社にはICT(情報通信技術)事業部があり、ホームページを作成するプロがいる。それも強みになっている」